

定期作況報告

平成23年9月
(9月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬:最高気温、最低気温、平均気温はともに平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや少なかった(平年比76%)。日照時間は平年よりやや多かった(平年比129%)。

9月上旬:最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は、台風12号に伴う前線の影響等により、2日90mm、2～4日累計で149mmを記録し、平年より極めて多かった(平年比307%)。日照時間は平年よりやや少なかった(平年比75%)。

9月中旬:最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より極めて高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや少なかった(平年比68%)。日照時間は平年よりやや少なかった(平年比69%)。

以上のことから、この1か月間(8月下旬～9月中旬)は平年と比較して、気温が高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

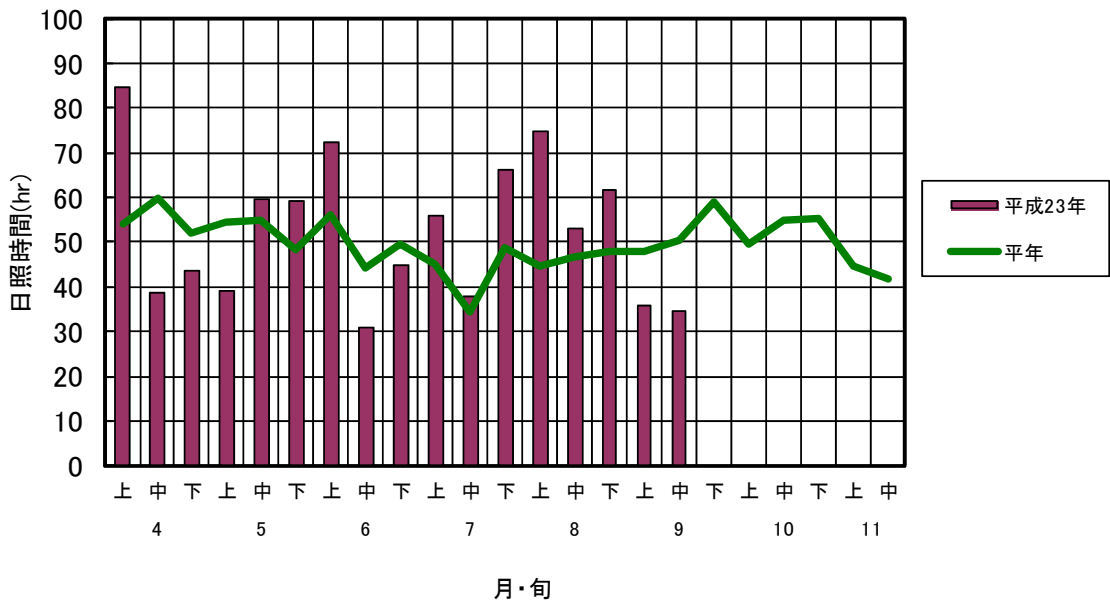
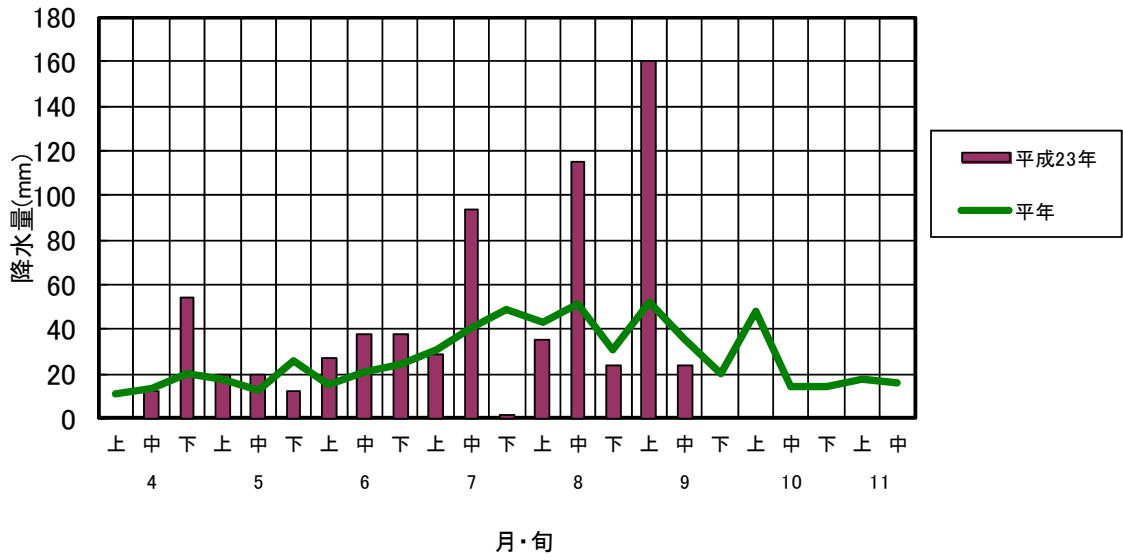
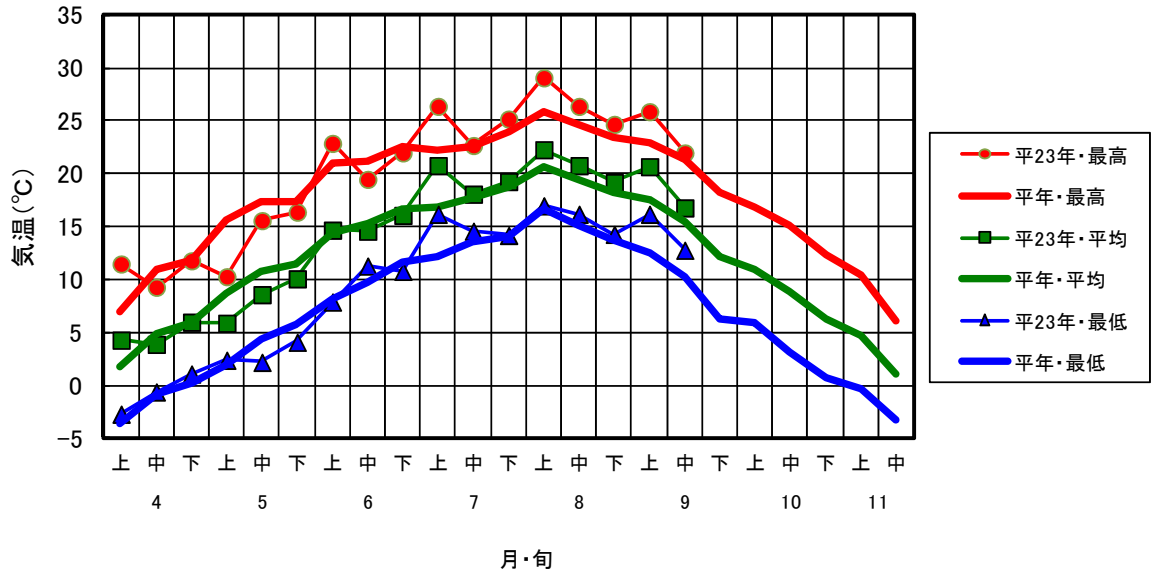
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	19.2	18.3	0.9	24.7	23.4	1.3	14.3	13.7	0.6
9月上旬	20.7	17.6	3.1	25.9	22.9	3.0	16.2	12.5	3.7
9月中旬	16.8	15.5	1.3	22.0	21.3	0.7	12.8	10.2	2.6

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	23.5	30.9	△ 7.4	61.8	47.8	14.0
9月上旬	160.5	52.2	108.3	36.0	47.8	△ 11.8
9月中旬	24.0	35.5	△ 11.5	34.5	50.3	△ 15.8

注1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作況：平年並

事由：7月以降、高温で推移したため、登熟期間は平年より3日程度短くなり、子実重は「春よ恋」で平年比99%、「ハルユタカ」で89%で、リットル重は平年をやや下回った。千粒重は平年並であった。
以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			ハルユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	452	457	△ 5	375	420	△ 45
同上平年比 (%)	99	100	△ 1	89	100	△ 11
リットル重 (g)	778	805	△ 28	766	807	△ 41
千粒重 (g)	40.9	40.0	0.9	37.9	38.7	△ 0.8

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

2) とうもろこし 作況：やや良

事由：9月20日の稈長は平年を31cm上回っている。本年は、抽糸期が平年より2日早かったことに加え、抽糸期後は高温傾向で経過したことから、登熟は平年よりやや進んでいると考えられる。
以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長 (cm) (9月20日)	297	266	31

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 大豆 作況:良

事由: 8月下旬~9月中旬の気温は平年より高かったため、登熟は順調に進んでいる。主茎長及び主茎節数は平年並であるが、分枝数は平年より多く、着莢数は平年を25%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.24	
主茎長(cm) (9月20日)	62.8	61.3	1.5
主茎節数(節) (9月20日)	11.2	10.9	0.3
分枝数(本/株) (9月20日)	6.4	4.9	1.5
着莢数(莢/株) (9月20日)	87.7	70.2	17.5

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 小豆 作況:良

事由: 8月下旬~9月中旬の気温は平年より高かったため、登熟は順調に進み、成熟期は平年より「サホロシヨウズ」で3日、「エリモシヨウズ」で7日、それぞれ早かった。主茎長は「サホロシヨウズ」では平年よりかなり長いが、「エリモシヨウズ」は平年並である。両品種ともに着莢数は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.14	9.17	△3	9.19	9.26	△7
主茎長(cm) (9月20日)	97.6	71.3	26.3	69.9	71.6	△1.7
主茎節数(節) (9月20日)	14.8	12.8	2.0	15.1	14.2	0.9
分枝数(本/株) (9月20日)	4.3	4.3	0.0	3.9	4.2	△0.3
着莢数(莢/株) (9月20日)	73.7	59.7	14.0	75.4	57.1	18.3

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：良

事由：登熟期間の気温が平年よりやや高く推移したため、成熟期は平年より3日早かった。主茎節数及び分枝数は平年並であるが、草丈は平年より高く、着莢数は平年を30%上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.30	9.2	△ 3
草丈(cm) (成熟期)	50.3	42.9	7.4
主茎節数(節) (成熟期)	5.4	5.2	0.2
分枝数(本/株) (成熟期)	4.3	4.2	0.1
着莢数(莢/株) (成熟期)	26.4	20.2	6.2

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、22年(最豊)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：やや良

事由：「男爵薯」の枯ちよう期は、平年より1日早い8月30日であった。上いも数が平年より多く、また塊茎の肥大が順調に進み上いも平均重が平年並だったことから、上いも重は平年を上回った。でん粉価は平年並であった。「コナフブキ」は、上いも重およびでん粉重とも平年並みである。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月.日)	8.30	8.31	△ 1		10.2	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	4694	4665	29
でん粉価(%) (9月20日)	—	—	—	21.5	20.9	0.6
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	962	928	34
上いも数(個/株) (収穫時)	10.3	9.3	1.0		9.9	
上いも平均重(g) (収穫時)	105	102	3		111	
上いも重(kg/10a) (収穫時)	4786	4220	566		4901	
同上平年比(%) (収穫時)	113	100	13		100	
でん粉価(%) (収穫時)	14.5	14.5	0.0		21.2	

注) 平年値は前7か年中、平成15(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

7) てんさい 作 況 : やや不良

事 由 : 地上部生育は9月上旬の多雨により停滞し、移植栽培では草丈、生葉数、茎葉重が平年を下回っている。直播栽培では、前報に引き続き、草丈、茎葉重は平年を上回っているが、生葉数はやや下回っている。地下部は、9月上旬～中旬の高温および9月上旬の多雨により、根重は平年を12～17%上回っているものの、根中糖分は平年を2ポイント以上下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	62.6	66.1	△3.5	55.1	59.8	△4.7	76.5	66.2	10.3
生葉数(枚) (9月20日)	27.6	30.4	△2.8	28.5	29.3	△0.8	26.7	27.4	△0.7
茎葉重(g/個体) (9月20日)	754	951	△197	768	981	△213	1,159	916	243
根重(g/個体) (9月20日)	1,061	906	155	1,092	974	118	863	756	107
根周(cm) (9月20日)	35.9	33.6	2.3	38.4	35.9	2.5	35.8	31.3	4.5
根中糖分(%) (9月20日)	12.88	15.03	△2.15	12.95	15.34	△2.39	12.08	14.97	△2.89

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

8) 牧 草 (チモシー) 作 況 : 良

事 由 : 1、2番草の合計乾物収量は平年比111%と高かった(8月報告)。2番草刈取り後は、8月下旬～9月上旬の気温が平年より高く推移したが、3番草再生時(2番草刈取後25日目:9月6日)の草丈は平年をやや下回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	41	46	△5

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ 作 況：やや不良

事 由：早生種「改良オホーツク1号」は、前報のとおり平均一球重は平年を上回った。晩生種「スーパー北もみじ」は、前報のとおり倒伏期が早く、その後の枯葉の進みも速かったことから、球肥大は劣り、平均一球重は平年を大きく下回った。規格内収量は、「改良オホーツク1号」では平年を18%上回り、「スーパー北もみじ」は平年を24%下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.15	8.25	△10	8.22	9.11	△20
収穫期 (月.日)	8.29	9.4	△6	9.7	9.17	△10
総収量 (kg/10a)	7889	7293	596	5422	7865	△2443
規格内収量 (kg/10a)	7317	6227	1090	5110	6699	△1589
同上平年比 (%)	118	100	18	76	100	△24
規格内率 (%)	93	87	6	94	84	10
平均一球重 (g)	258	247	11	183	268	△85

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。